

かわさき区の宝物シート

宝物No.
4-4

むえんつか 無縁塚

エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁畷	日時	

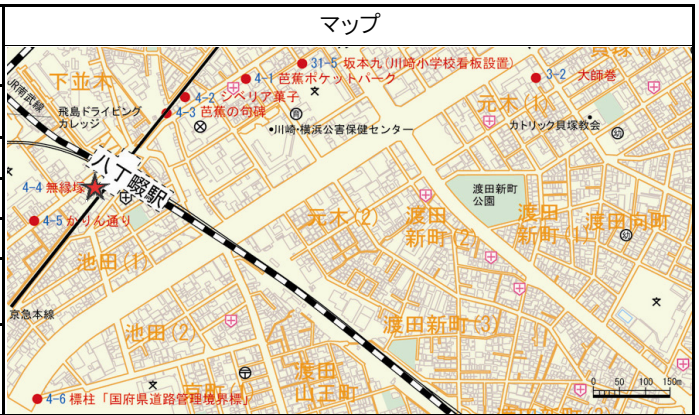
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



毎年5月のご供養日

写真提供：下並木町内会

所在地	川崎区下並木（京急八丁畷駅敷地内）
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	京急八丁畷駅敷地内



基礎情報

■川崎宿を出て横浜方面に向かう道を「八丁畷」と呼んだ。この付近では江戸時代以降多くの人骨が発見されており、戦後の道路工事などでも度々掘り出され10数体にも及んだという。東京大学による鑑定の結果から江戸時代頃の特徴を備えた人骨であることが判明し、当時の震災、大火、洪水、飢饉や疫病などの災害で亡くなった身元不明の人々を宿場のはずれの八丁畷の並木の下に埋葬したのではないかとされている。このような無縁仏のために昭和9年(1934)地元と川崎市によって供養塔が建てられた。

■現在では地元の下並木町内会が日常の維持・管理を行っている。毎年5月の第4日曜日には町内会でご供養を行い、近隣の商店主や町会長、京急八丁畷駅長など50名ほどが参列する。読経の後、町内会館において追会が開かれる。

由来・エピソード

■江戸時代、東海道を京都に向かう際、川崎宿を抜けると、隣の市場村（現鶴見区市場上町）まで田んぼの中の真っ直ぐな道（畷）が八丁（約870m）続いていたことが八丁畷の由来であるという。街道の両側には松、杉、榎が植えられ当時は「八丁縄手並木」と呼ばれていた。現在は下並木町内会の要望をうけて川崎市が植樹したかりんの並木道になっている。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿
(4-5)かりん通り